舞鶴市議会
市民文教委員会
活動報告

- 東京都町田市における取組の調査
- 茨城県土浦市における取組の調査
- 茨城県鹿嶋市における取組の調査

市民文教委員会調査視察　実施日：令和4年5月9日～11日

視察の目的

　循環型社会の確立において、環境への負荷低減に努めるための３Ｒ（リデュース・リユース・リサイクル）の取組を推進している事例を調査し、その手法や体制等を検討していくために必要な取組について、新たな視点を得る。
　また、子どもや保護者への家庭教育支援の充実を目的に、支援体制の構築を検討する上で、実効性のある取組を推進している事例を調査し、本市の取組に対する多様な観点の１つとして生かすとともに、より効果的な市への政策提言につなげる。

［市民文教委員会の令和４年の重点事項］

（1）　子育て環境日本一を目指す取組の調査研究

（2）　ごみ減量の取組３Ｒ（リデュース・リユース・リサイクル）を調査研究

舞鶴市議会のホームページに視察報告書を掲載していますので、ご覧ください。

視察先及び日程

日	程	視察先	調査事項
令和4年5月9日（月）	午後2時30分～4時	東京都町田市	ごみの減量について
令和4年5月10日（火）	午後1時～2時30分	茨城県土浦市	みらいスタディについて
令和4年5月11日（水）	午前10時～11時30分	茨城県鹿嶋市	訪問型家庭教育支援事業について

市民文教委員会調査視察　実施日：令和4年5月9日～11日

【東京都町田市】調査事項：ごみの減量について

≪町田市の取組の概要≫

◆　町田市では、使い捨て容器を使わない「リユース意識」の向上のため、マイボトルキャンペーンを実施し、スポーツイベント等で、マイボトル持参者に選手から、シールやステッカーをプレゼントしている。
◆　平成６年度から、粗大ごみの中で再生可能な家具類等を修理し、予約なしの販売方法がとられている。
◆　燃やせないごみを減らす「小型家電回収ボックス」の設置、地域の皆さんが自主運営する「地域リサイクル広場」など、ごみを減らす、くり返し使う取組のほか、バイオエネルギーセンターには、ごみの全てを再資源化する技術もある。

≪委員の所感≫

○　マイボトルキャンペーンでは、市民と事業者が一緒になってごみの減量に取り組んでいることや、市の職員が自ら現場に出向き、市民の反応、声を聞き取りながら減量対策に取り組むところが素晴らしい。
○　バイオエネルギーセンターでは、発生する家庭ごみのエネルギー化が素晴らしく、発電、温水、焼却灰はエコセメントとして資源化し、埋立処分を限りなく少なくしている。
○　不燃物は、金属類やプラスチック類についても細かく分別、選別できるシステムを導入するなど再資源化を徹底され、最先端の３Ｒとはどのような取組であるかを感じ取ることができた。

市民文教委員会調査視察　実施日：令和4年5月9日～11日

【茨城県土浦市】調査事項：みらいスタディについて

≪土浦市の取組の概要≫

◆　土浦市では、小中９年間の発達段階に応じた系統的なキャリア教育のプラン（下記のメニュー）を構築し、子ども達の健やかな成長と主体的に生きていく力の育成を目指している。

（1）直接指導・・・学級活動や総合的な学習の時間に、働くことや職業についての学習を行う。

（2）間接指導・・・国語や社会、生活科など各教科の学習の中で、教科の目標と並行してキャリア能力を育てる。

（3）常時指導・・・挨拶や係活動、清掃など日常生活の中で、基本的生活習慣や社会性を育む。

≪委員の所感≫

○　土浦市では、国語や社会などの教科や特別活動、道徳などの時間をはじめ、全ての学校生活の中でキャリア教育を行っていることや、子どもたちの夢や希望をかなえるための取組「みらいスタディキャリアノート」を活用し、義務教育９年間を通して、発達段階に応じた教育がなされていることが印象的であった。

○　ノートの活用方法も、子どもたちが自ら書き込むところが特徴であり、自身の成長や夢、目標などをいつでも振り返ることができ、自分自身の見つめ直しができるところが素晴らしく、教員や保護者も、コメントによって子どもの成長を確認することができるなど、大変参考になるものであった。

市民文教委員会調査視察　実施日：令和4年5月9日～11日

【茨城県鹿嶋市】調査事項：訪問型家庭教育支援事業について

≪鹿嶋市の取組の概要≫

◆　鹿嶋市では、地域人材を活用した家庭教育支援チームを立ち上げ、平成29年度から家庭に教育支援を届ける「訪問型家庭教育支援事業」を開始した。

◆　元教員や民生委員等で構成する支援チームが、小学校１年生の子どもを持つ全家庭を訪問し、子育ての悩みなどの相談に応じている。

≪委員の所感≫

- 家庭教育支援チームについては、専門性に課題があり、人材確保の面で苦労されていると感じた。
- 専門機関との連携を重視され、その橋渡し役としての支援員の役割は重要であるとも感じた。
- 支援のあり方については、子どもに対する直接的な支援もあるが、効果的な支援は親にあるとの判断、取り組む姿勢に共感するとともに、支援チームの主たる考えは、訪問し、親の声に耳を傾けること、聞き上手であることが重要であり、応援者が側にいる安心感を与えることは、この事業の要であると認識した。
- 支援を求める子どもや親のＳＯＳを見逃がさないこと、個人情報保護や機関の連携不足で、知り得た情報が生かせず、「経過観察」ということにならないよう、舞鶴市においても課題を抱えるご家庭の早期発見、早期対策を検討する機関等の組織編成が、「家庭教育を支える仕組みづくり」に必要であると感じた。